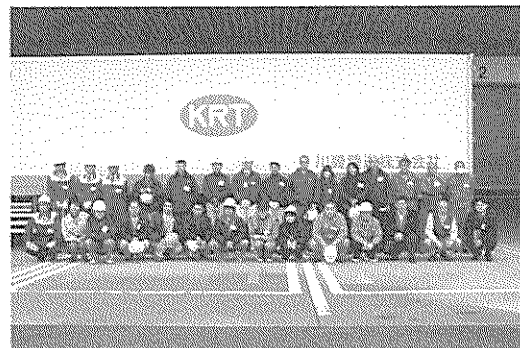
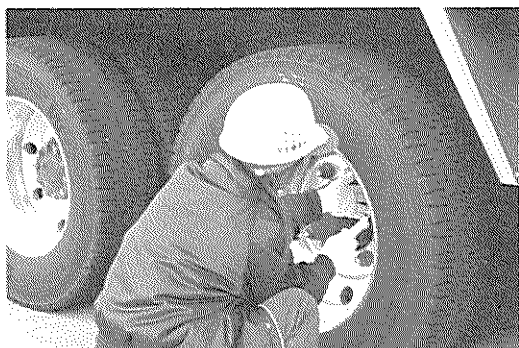


ヤマトオートの協力で点検のポイント学ぶ



女性ドライバー3人含む18人が参加
広域運送事業協同組合(広運協、樋口恵一理事長)は17日、川崎陸送の坂戸流通センター(埼玉県坂戸市)で、第9回安全運転研修会を開催し、組合員7社(アルファード、川崎陸送、関東トネックス、清一急配、都留貨物自動車、東京ロジネット、山梨総合運輸)から女性ドライバー13人を含む18人が参加した。



3両を用いて点検実技研修を実施

が参加した。組合員から要望の多かった日常点検に焦点を絞った研修で、ヤマトオートワークスの協力の下、実現した。
午前は座学で、広運協の上田健一安全研修委員長が講師を務めた。日常点検について保安基準第47条で義務付けられており、所有者(解釈としてはドライバー)が実施

すべきであることを説明。日常点検をきちんと行うことで、路上故障の防止や整備費節減のほか、「車の構造に詳しくなり、トラブルに対処できるようにする」といったメリットを強調し、反時計回りに1回で点検する効率的な方法を提案。「故障した際に、人に頼るか自分で手を下すか選択肢があるが、プロドライバーとして正しい判断ができるようになってほしい」とアドバイスした。

具体的には①クラッチ、ウォッシュヤー、冷却水の量②左右ミラーの取付け状態③ワイパーブレードの状態④エンジンオイル量⑤ファンベルトの張り⑥タイヤのエア圧⑦ハンマーを使ってパンクの有無のチェック⑧釘の刺さりや溝の深さ⑨リヤのホイール間の石の噛み込み⑩バッテリー液⑪灯火類⑫エアタンクの点検⑬ワイパーの払拭状態⑭ウインドウォッシュ液の噴射状態⑮ミラー撮影状態⑯ブレーキ・アクセルペダルの排気音や引っ掛り⑰計器類の点検——などの注意点を解説した。

午後は大型、中型計3両のトラックを用いて点検実技研修を行った。トラックに細工した不具合箇所を見つけてるのが狙いで、いつも行っているようやり方で点検し、インストラクターの指導を受けた後、2回目を実施。点検不具合の中では、スペアタイヤの空気圧やミラー、灯火類の修繕箇所などのチェック漏れが多く、インストラクターからは「灯火類が緩んでいないか実際に手で触れてチェックするとよい」「タイヤのホイールナットの緩みのチェックはもう少し強くハンマーで叩くよ」といったアドバイスがあった。